

毎月1回、身近な問題に関する学生の議論を掲載しています。感想や意見をお寄せください。〒960-8602 福島民報社地域交流部。ファックスは024(531)4117、メールはchiki@fukushima-mir.jp、po.op.jp(氏名・電話番号を明記)

関本先生 国民生活基礎調査によると、中間的な所得の半分に満たない家庭で暮らす子どもの割合「子どもの貧困率」は、2018（平成30）年の時点で13・5%。7人に1人が貧困状態にあるということになる。子どもの貧困と聞くと、どんなイメージを持つかな。

柴田 虐待との関連が気になる。
関本先生 貧困の状況からネグレクトを招くこともあるし、どうにもならない思いから身体的・精神的な虐待に至る事例が指摘されている。

田林 貧困がいじめを招くこともある。誰に対しても相談しにくく、逃げ場のない状態になりやすい。

関本先生 生存に欠かせないものがない状態を「絶対的貧困」といい、見た目ではっきり分かる。今問題になっているのは「相対的貧困」。見た目で見分けない場合が多く、恥ずかしさから困っていることを言い出しにくい。
大妻 周りで気付いても、見て見ぬふりをすることがあるかも。

関本先生 見過ごされた結果、最悪の状況にもなり得る。

伊藤 家庭の要因が大きい。
益子 貧困の状況が、その後の能力

の差に表れると感じる。経済的余裕があれば塾に行ったりスポーツ用具を買ってもらったりできるけど、そうでないと我慢させられるだけ。

関本先生 野球用具を買ってもらえず、キャッチボールなどの習慣がないとその分、身体能力を伸ばす機会が失われる。環境は重要な要素だし、経済的な影響は大きい。

吉田 子どもたちのやりたいことが制限されてしまう。

関本先生 子どもの最善の利益を保障することは、自分らしい生き方を選ぶことにつながる。経済的な問題があると、興味があることをやってみるとか、希望する仕事に就くために進学することなどが難しくなる。幼児教育・保育の無償化や高等教育の修学支援新

制度で経済的負担が抑えられるようになってきたけど、負担は依然大きい。
菅野 子どもの笑顔が見たいけど、コロナ禍で難しくなっている。

山口 子ども食堂では、経済的な理由から家庭で食事を満足に取ることが難しい子どもに食事を提供し、さらに学習支援を行っている所もある。安心して過ごせる場だと思うけど、コロナ禍の中、運営が難しいのでは。

関本先生 そう、子ども食堂はかなり浸透してきたけど、活動再開のめどが立たない所も多いようだ。食品の無料配布や宅食による支援を始めている子ども食堂もある。ところで、みんなはもうすぐ卒業して実際に子どもたちや保護者の方と関わるようになる。どんなことに気を付けていきたいかな。

堀江 職員や園で協力することが大切だと感じる。子どもだけではなく保護者への支援も手厚くしていきたい。

関本先生 子どもたちとの関わりを大切にするのはもちろんだけど、支援に関わる情報をスムーズに伝えられるようにするためにも、保護者との信頼関係をしっかりと築いてほしいな。

一次回は2月第4週に掲載予定

子どもの貧困

能力や生き方に影響



写真前列右から益子美雲さん、吉田知香さん、大妻ひなさん、堀江こまちさん。後列右から山口睦さん、伊藤紗智子さん、田林瑞葉さん、柴田あみさん、菅野円莉さん、関本仁講師

保育学科